

笹川蘭風 あざな 史論家、小説家、美術・邦楽研究家、文學博士。明治二年八月七日東京生れ、昭和二十四年四月十一日没（二七〇—一九五九）。本名種郎。別號ふたりの山人蘭風、（ニ々ハ子、今吾鑿斯、棚々ハ子、臨風子、臨風學人、臨風生、珊々子等。明治二十九年帝國大學文科大學國史學科卒。在學中大野海竹等と筑波會と興し創作。二十一年雜誌『帝國文學』編輯に關與、二十四年宇都宮中學校校長、四十一年工藝革新會を結成、のち明治大學・東洋大學・駒澤大學各教授を任。またおみ 十日會と興し河東節保存に努めた。

著書『支那小説戯曲小史』（明治二十年六月十日東華堂）、『日本地氣論』（本名、再版・明治二十一年二月十五日普及舎「新撰百種」）、『支那文學史』（同、附治二十一年八月一日博文館「帝國百科全書」）、『美文叢書下清泉』（合著・石橋愛太郎編、附治二十二年九月十八日大學館「名家文庫」）、『杜甫』（本名、附治二十二年十月一日大日本圖書株式會社「支那文學大綱」）、『岳飛』（同、附治二十二年十一月十一日博文館「世界歴史叢書」）、『雨後風片』（附治二十二年九月二十日博文館）、『元祿時勢粧』（附治二十四年四月二十日博文館）、『中等教科日本文學史』（本名、附治二十四年五月十日文學社）、『遊俠傳』（附治二十四年九月二十八日文武堂）、『奈良朝』（本名、附治二十四年十月二十日博文館）、『解語講演集』（合著・筑波會編、附治二十八年二月八日金澤堂書籍株式會社）、『時代と人物』（附治四十一年七月十日春陽堂）、『むすびの巻』（大町桂月、附治四十二年二月五日高有倫編、附治四十二年二月五日高有倫編）



『南朝正統論』（本名、附治四十四年二月十七日春陽堂）、『南

朝五十年史』(明治四十四年六月十七日新潮社)、『新釋源氏物語』

藤井紫影
佐々木重共著、
沼波煥音

年五月二十日新潮社)、『葉柳』(大正元年八月一日春陽堂)『現代文

藝叢書』(、歴史物誌『新田左中將』(大正二年七月十二日同文館)、『畫

趣と詩味』(大正二年九月七日中央書院)、『英雄經』(校、大正一

年十一月十日敬文館。秋野淡香鈔譯『資治通鑑』(、『山中鹿之助』

(大正二年十一月十五日中央書院)、『二國時代と諸葛孔明』(校、

大正二年四月二十三日敬文館。秋野淡香鈔譯『資治通鑑』(、歴史物誌『織

田信長』(大正二年五月十二日中央書院)、歴史物誌『伊達稜嶺』(大正

二年七月十一日中央書院)、歴史物誌『山中幸盛』(大正二年十一月十日

千章館)、『本多平八』(大正四年一月二日岡村書店)『日本武士道史

傳』(、『通俗叢書』(通俗教育普及會共編、岩井尊人著)『通俗イリ

ソッド物語』(大正四年二月二十日)、『通俗太平記物語』(四月十八日、

岩井尊人著)『通俗オデイセイ物語』(五月十五日、手島晴庵・脇坂義堂
布施松翁・柴田鳩翁

著)『通俗心學道語』(七月二十八日、セルヴァンテス作)『通俗ドンキホ

ーテ物語』(八月二十六日、『通俗謠曲物語』(十月十五日、ダニエル・

デフォー作)『通俗ロビンソン・クルソー物語』(十一月十五日、曲亭

馬琴作)『通俗三張月物語』(十二月二十一日、小山龍之輔著)『通俗源氏

物語』(大正五年二月十五日、チャールス・ラム著
木村秀夫 譯『通俗シエークスピ

ーヤ物語』(同日、サミュエル・スマイルズ著)『通俗自助論物語』(二月

十五日、『通俗古事記物語』(四月十五日、『通俗大閩記』(内題)『通俗

大閩記物語』(六月十五日、『通俗アラビヤンナイト物語』(七月十五日、

曲亭馬琴作)『通俗里見八犬傳』(内題)『通俗里見八犬傳物語』(八月十五

白、コオチン・ドイル作『通俗シヤアロック・ホルムズ物語』九月十日、長村天空譯

五日、『通俗作家物語』十月十五日、『通俗プリューターク英雄傳』

内題『プルターク英雄傳』十一月十五日、小山龍之輔著、『通俗淨瑠璃

物語』内題『通俗淨瑠璃各作物語』十一月十五日、アレキサンドル・藤澤譯

デューマ作『通俗モント・クリスト物語』大正六年一月十五日、『通

俗會作物語』内題『通俗會作物語』二月十五日、『通俗教育普及會』、俗義經記

『白蓮上人(密制)』(大正四年十二月二十一日同文館)、『現代美

術』(大正六年二月十日美術叢書刊行會『美術叢書』)、『古今の學

』(大正六年二月十日東京亞書房)、『渡若』(大正六年四月五

日大阪・成教堂)、『橋の下路』(大正六年五月十七日橋本夫人遺跡

保存協賛會)、『自然美と藝術美』(大正六年十一月十七日正午出版

社)、『江戸むらさき』(大正七年二月二十日實業之日本社)、『傑

作雲の波か』(樋口龍政共編、大正七年九月十四日松木商會出版部)、桂月

『趣味の古跡めぐり』(大正八年七月二十三日博文館)、『武士道怪傑

傳』(二冊物外、大田蒼溪合著・岡村書店編輯部編、大正九年十月二十五日岡村

書店、『岡村書店代表的傑作叢書』)、『渡邊華山』(大正十年一月二

十日愛知縣渥美郡教育會、生田堂發賣)、『自然と文化との諧調』

(大正十一年一月八日博文館)、『江戸と土方』(大正十一年二月一

十五日國史講習會『文化叢書』)、『日本繪畫史・上卷』(大正十一

年十月十日之黃社)、『歷史』、『京鹿子』(大正十二年八月十八日博文

館)、『御家騒動の研究』(合著・國史講習會編、大正十四年五月十

日雄山齋)、『白蓮上人』(大正十五年七月二十五日京文社)、『旋

風』(共作、大正十五年十一月二十八日東京朝日新聞發行所)、『美

術講話集(第一輯)』(合著、大正十五年十一月二十五日親交研究

會)、 『江戸情調』(本名、昭和二年二月十日磯部甲陽堂「日本民俗

叢書」)、 『江戸文化概観』(同、昭和二年二月二十日東京市教育局

「市民講話」)、 『橋本と觀心寺』(昭和二年四月二十日大阪・大分

本橋公會)、 『^{海濱}哀話信道の跡』(昭和二年五月二十日和歌山・和歌

堂)、 『曲水流觴』(合著、昭和四年二月曲水主人刊)、 『下谷と野

』(合著・久保田金徳編、昭和四年四月一日松坂屋)、 『變りか實話』

(合著・朝日新聞社編、昭和四年八月二十日東京朝日新聞發行所)、

中野道彦著『^譯文道彦遺稿一附原文』(金葉松桂共譯、昭和四年九月十

日岩波書店「岩波文庫」)、 『^{廣松中納言物語}と少めばや物語更科日記』(本名、

藤村八郎共校註、昭和四年十一月八日博文館「博文館叢書」)、 『^{昭和}

作文教科書・卷一』(同、昭和五年十月二十五日帝國書院)、 『近世

文藝』(同、昭和六年一月二十一日明治書院)、 『新撰和歌論語』

(解題、徳會集落一郎編、昭和六年九月二十日民友社「新成實叢書」)、

『日本文化史』(本名、昭和六年十月二十八日雄風館書房)、 『日本

文學講座・第七卷一室町時代』(同、合著、昭和七年六月二十六日新

潮社)、 『文武抗争史』(合著・雄山閣編輯局編、昭和八年六月十日

雄山閣)、 『^{高野山}哀^史石量丸』(昭和九年五月二十日和歌山・外書堂)、

『^曲曲隆盛』(本名、昭和九年十一月二十四日建設社「少年大日本

史」)、 『渡君』(昭和十年十月五日一社社)、 『好日記行一旅の隨

筆集』(合著・大倉實編、昭和十二年四月二十五日矢の倉書店)、 『琵琶

琵琶物語』(昭和十四年九月二十日博多成象堂)、 『日本文學讀本』

(合著、昭和十五年八月十四日^{東京朝日新聞社}大阪毎日新聞社編刊)、 『渡邊華山』

(昭和十五年七月)二十一日高陽書院)、『講説日本文化史』(昭和十
 六年)二月二日高陽書院)、『元祿表裏の顛末』(講演筆記、昭和十六
 年七月二十一日山形・遠藤書店)、『赤穂義士研究』(昭和十七年一
 月十五日大東書館)、『畫人岡田三郎助』(合著・大隅爲三編、昭和
 十七年十一月十五日春會館)、『和歌めら見たる日本女性』(昭和十八
 年一月十日國民教育會出版部)、『邦樂』(昭和十九年五月二十日創
 元社)、『明治源流』(昭和二十一年六月二十五日埼玉・亞細亞
 社)等。